

中井町男女共同参画推進情報誌

ひだまり

No.28

平成30年度神奈川県・中井町男女共同参画推進市町村連携事業

中井町男女共同参画推進講演会を開催しました

卒婚 夫婦の良い距離の取り方 ～お互いに縛らず、支え合う関係～



中央大学法学部教授 広岡 守穂

平成30年9月19日（水）に、中井町農村環境改善センターで「卒婚 夫婦の良い距離の取り方～お互いに縛らず、支え合う関係～」と題した中井町男女共同参画推進講演会を開催しました。

今回は、佐賀県立女性センター・アバンセ館長などを歴任し、『男だって子育て』でベストメント賞を受賞、また、現在も中央大学法学部教授としてマルチにご活躍されている広岡守穂さんに講演をいただきました。

当日は、「卒婚」を実践されている広岡先生の実体験を、ユーモアを交えてお話いただき、40代から70代までの多くの方が、熱心に耳を傾けていました。



思い込み、固定観念って・・・

先生は中学の同級生と大学時代に、親の反対を押し切って学生結婚されたそうです。親の反対を押し切り学生同士が結婚するんですから、子育ても親の協力は望めず専業主婦の奥さんが子育てに追われていました。そんな奥さんを見て先生は、家族サービスをすれば奥さんの気晴らしになると思い、色々なところに家族で出かけたり外食などをされたそうです。

しかし、3人目の子育て時に「今までは色々なところに行って楽しかったね～」と奥さんに話しかけたところ、予想もしない返事が返ってきました。

1オクターブ低い声で「そう？」といわれたそうです。奥さんは家族で出かけても、子どもを気にかけて目で見守り、外食もゆっくり口にできず全然ゆっくりできなかった。たとえ1時間でも夫が子どもを預かり自由な時間をもらいたかったと。

先生は、強い衝撃を受けたそうです。

そこには、「母親と子どもは一緒にいたいものだ。」「子どもとは離れていくくないはずだ。」「子どもと一緒にいさせてあげたい。」「家族サービスをすれば妻の気分は晴れるはず」という固定観念が働き、強い思い込みをしていたのです。

女らしさ？



男らしさ？



近年、女性活躍推進法の施行など社会として女性の社会進出などを後押しする傾向にあるものの、「男らしさ」「女らしさ」といったジェンダーに対する固定観念は、未だにあらゆる場所で見られ男女の生き方に大きな影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

男女格差って感じていますか？

前ページでは男女の固定観念について触れましたが、皆さんは社会や日常で男女の格差って感じていますか？

女性の社会進出や、イクメンが流行するなど家事や育児を積極的に行う男性が増えてきているなど、男女の格差はだんだん無くなってきているように感じます。

スイスのシンクタンクである「世界経済フォーラム」が毎年「男女平等度ランキング」を発表してします。これは世界149か国を対象に、「経済」「教育」「健康と生存」「政治への関与」の4分野について調査分析し導き出しているランキングです。

【4分野の内容】

経済活動の参加と機会（給与格差、管理職比率など）

教育（初等・高等・専門教育への就学など）

健康と生存（平均寿命の男女比など）

政治への関与（女性議員の比率など）

皆さん、2018年のランキングで日本は何位くらいだと思いますか？なんと・・・110位、G7（先進7か国）でも断トツのビリなんです。

昔に比べれば男女共同参画が進んできているものの、家庭や社会でみられるジェンダーに対する固定観念などは、世界基準で女性の社会進出がまだまだ進んでいないという社会背景も大きく影響しているのかもしれないね。

男女平等度ランキング 2018 【トップ7】

順位	国名	指数
1	アイスランド	0.858
2	ノルウェー	0.835
3	スウェーデン	0.822
4	フィンランド	0.821
5	ニカラグア	0.809
6	ルワンダ	0.804
7	ニュージーランド	0.801

【G7での順位】

順位	国名	指数
12	フランス	0.779
14	ドイツ	0.776
15	イギリス	0.774
16	カナダ	0.771
51	アメリカ	0.720
70	イタリア	0.706
110	日本	0.662

大切なのは自分育て！

先生の奥さんも結婚10年を迎えた頃から、子育てをしながら様々な資格取得のための勉強や英会話に取り組んだそうです。しかし、子どもの世話が優先で、どれも長続きしませんでした。

ある日、そんな奥さんを先生は「また三日坊主かね」とからかってしまったそうです。悪気はなかったけれど、奥さんの目から涙があふれ、先生は驚き、深く反省したそうです。

奥さんは「社会とつながりたい」という願望を強く持ち、いつでも第一線で社会復帰する努力「自分育て」をしたかったのです。

夫が家事や育児をすることが男女共同参画の重要事項ではなく、妻が子育てと自分育てを両立できるようにすることが重要なのです。

私たちも、まずは家庭の中から、「男だから～」「女だから～」といった固定観念を取り払い、互いを尊重し、夫婦の良い距離を保ち、互いに支え合う関係を築いていきましょう。

次のページでは、講演会参加者の声を紹介しています。

講演会参加者の声（一部抜粋）

- ◆自分の思い込み、夫は～、男は～にいつも気付かされる。
ほんの僅かしか修正できていないが。(60代以上男性)
- ◆娘の年代の夫婦の方たちに、ぜひ聞いてもらいたいと思いました。
私は3世代同居の家族ですが、娘夫婦の関係が今回のお話に当てはまる部分があるように感じます。(60代以上女性)
- ◆卒婚とは「家事を手伝え」と思ったら、全く違った視点で参考になった。
「妻の自分育て」を手伝いたいと痛感した。(50代男性)
- ◆日本の男女格差、色々な報道により毎日のように感じられます。政治家も男性社会の縮図のようです。
若い人たちに教授が教えていくことは大事だと思うし、私も生活の中で考えていこうと思いました。卒婚は相手を思いやり実践していきたい。(60代以上女性)

男女共同参画に携わって！男女共同参画推進懇話会を務めた2年を振り返りました。

中井町男女共同参画推進懇話会委員になって2年が過ぎようとしています。

懇話会委員として、町の男女共同参画推進のため年2回の男女共同参画情報誌「ひだまり」の編集や発行、講演会の実施などに取り組んできました。

しかし、残念ながら中井町での男女共同参画の理解は変わっていないように感じます。私たち委員であっても、男女共同参画について、まだ漠然としている部分がある事も事実です。

中井町の土地柄と言ってしまうとそれまでですが、地域に目を向けると、未だに男尊女卑の考えが色濃く残っていると感じます。また、講演会などを計画しても、なかなか積極的に参加をしようとする方も少ないように感じます。

毎年、町民の皆さんにいかに興味を抱いていただけるかを考えテーマを設定し活動してきましたが、今後は、より町の実態に即したテーマ設定が必要であると考えます。

男女共同参画推進懇話会の委員任期は2年で、委員を担う人も変わっていきますが、男女共同参画推進懇話会として、男女共同参画の考えを町民の皆さんに広くお知らせするとともに、皆さんに参加いただけるイベントを実施していきたいと思えます。

引き続き、町の男女共同参画推進にご理解、ご協力をお願いします。



「ひだまり」へのご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

編集 / 中井町男女共同参画推進懇話会 発行 / 事務局 中井町地域防災課

〒259-0197 足柄上郡中井町比奈窪56番地

Tel:0465(81)1110 Fax:0465(81)1443 E-mail:chiiki@town.nakai.kanagawa.jp